

5 奈良の薬業教育

県立御所工業の 一九五二年（昭和二七）四月一日、御所実業高校と名称が変更されると同時に、初の薬業科が新設された。その後、一九五八年（昭和三三）に御所工業高校として新発足、一九六三年（昭和三八）四月一日から薬業科は「薬学科」となり現在に至っている。

一〇〇〇人をこえる卒業生の進路は、毎年就職希望者の六〇〜七〇%が医薬品製造会社、同販売会社に就職、薬品の製造や試験研究、あるいは各種病院、薬局などを対象としたプロパーとして活躍している。

一九八一年（昭和五六）度の卒業生は、女性一人を含め、計二九人。このうち県内配置薬製造会社への就職は一二人で、就職先は、県内企業五企業。配置販売業に従事する者は、ここ数年ゼロである。県外の製薬会社へは、四社である。薬学科への求人年平均一五〇社で、薬学科は就職には恵まれた存在である。

県立医専に薬学専門部設置の協議 奈良県家庭薬配置商業協同組合・葛薬友会・発行の『創立六〇周年記念・葛薬友会のあゆみ』によると、一九四九年（昭和二四）七月一日、「薬友会長会議にて、奈良県立医専に『薬学専門部』設置について協議、二〇〇万円資金調達の内、配置部門三〇万円寄付割当に賛成する」とあり、当時の薬業関連団体の熱意のほどがうかがえる。

薬業教育について、ふれなければならぬ大事なことがある。一九二九年（昭和四）三月一日、当時、奈良県今井町（現橿原市）で大和売薬行商員大会が開催され、四件決議され、同業者の奮起を促したが、その一つに「県立売薬商業



県内主要駅に設置された看板

学校の設立を要望す」とある〔大和宛〕。

日を経ずして、吉田久四郎・中島太兵衛・米田竹松・中田正司・西岡徳之・谷口寅蔵らが発起のもとに、多数有力同業者の浄財寄付により、奈良県薬学校の建設を見るに至る。

目標は二か年卒業で、売薬販売員の養成を主眼とし、校長中尾源次郎・森里晋七・永峰岩次・松島郁雄・後藤謹二・中島利夫・布施弘憲などの諸氏が教べんをとった〔大和宛〕。

奈良のくすり宣伝の発祥の地の地元宣伝を高めるため、県内主要駅への構内看板設置を決めた。

設置駅はいずれも近鉄で、同年度は奈良・八木両駅とも電照、西大寺・天理・田原本・あやめ池・橿原神宮前・大和高田・高田市・尺土・御所・壺阪山・吉野口で、橿原神宮前のみ二か所、いずれもタタミ一枚半から二枚半の大きさの額面であった。

同看板設置は、同協同組合の同年度からの、新しい宣伝広報事業で、初年度の同事業費は、計五〇〇万円（うち県費補助半額）で、主として配置側の地元宣伝強化要請に、製薬側として応える形となっ

薬業音頭

一 朝日輝く東の空よ

あかるいみんなの笑顔を胸に

真心こめたクスリを作る

品質管理は自慢の職場

これがぼくらの生き甲斐なのさ

作詞 岩城謙太郎
作曲 前田利明
唄 弦哲也

た。翌年度も前年度と同額の宣伝広報事業費で駅頭看板設置がなされた。

婦人配置員 奈良県では富山・滋賀・佐賀各県の注目をあびて、の募集 婦人の手によって県内の配置薬の販路を広めよう

とし、ユニークな試みをおこなった。

婦人の内職を斡旋する公的機関の県婦人就職サービスセンター

(家内労働法に基づく労働省の機関)を通じて、「ヘルスキーパー」と呼ばれる婦人配置員を、「ヘルスキーパー友の会」(加盟二〇社、太陽堂

製薬・大師製薬・新生薬品工業・大和榎原製薬・協業組合奈良県製薬・岸田生薬研究所・美吉野製薬・田村薬品工業・中村薬品工業・朝日製薬・佐藤薬品工業・ワキ製薬・薬王製薬・大和合同製薬・天真堂製薬・大毎代理部薬品部・川田製薬・光洋製薬・日研製薬・吉田製薬)の会員ごとに雇用し、

奈良県内を開拓しようというもの、加盟各社の希望人数や地域、契約条件の調整を窓口の県家庭薬配置商業協同組合でおこない、同組合から県婦人就業サービスセンターを通じて婦人配置員を公募する

(「なら県民だより」昭和五、八年五月一日号に公録) 応募者は県薬務課主催の薬事講習会を受講、

試験に合格後に就業を希望する者は県家庭薬配置商業協同組合を通

ソレ 薬業音頭でドドンがドンドン
健康日本のない手だ

二 風がつめたい北の空よ

みんなの病いの回復祈り
医療の要のクスリを運ぶ
ハンドル捌きと商品知識

これがぼくらの生き甲斐なのさ

ソレ 薬業音頭でドドンがドンドン
健康日本のない手だ

三 雲がとぶとぶ南の空よ

きょうも幸せ明るい一日

あの窓この窓いこいの灯り

クスリを通して社会へ奉仕

これがぼくらの生き甲斐なのさ

ソレ 薬業音頭でドドンがドンドン

健康日本のない手だ

(「薬窓新報」昭和五一年二月二十五日号)

じて各社と雇用契約を結び、新規開拓にあたる。一九八三年（昭和五八）九月に三二人の婦人が就業、翌年九月現在、一三人の婦人が活躍している。

6 産地診断と調査報告

昭和三二年の 県は配置家庭薬業の振興について、一九五七年（昭和
産地診断 三二）及び一九七一年（昭和四六）の二度にわたって産
地診断をおこない、それぞれ『診断報告書』を作成し、業界の進む方向
を明らかにし、業界の指導をおこなってきた。

一九五七年（昭和三二）一〇月に報告された『奈良県家庭配置薬工業
産地診断報告書』によれば、産地診断は同年九月一〇日から一〇月一
日までおこなわれた。その結果、くわしい解説づきの勧告がまとめられ
ている。紙数の関係から、とくに重要と考えられる事項のみを摘出す
る。

- 一 企業の健康度を自己診断する仕方をぜひ会得されること。
- 二 資金運用について、資金運用表を作成し、できれば毎月又は毎月半期
に作成し、自家の資金運用の跡を反省すること。

奈良の薬屋さん

赤尾健太郎・作

一 奈良は大和の 薬屋さん

くすり 背負ってやってくる

いつも にこにこやってくる

大和のくすりはよくくすり

二 国も薬も 大和は 隆

恵美須大黒 薬屋さんか

いつも にこにこやってくる

奈良のくすりはよくきくよ

三 大和榎原 み柱 建てて

薬 よいよい 津々浦々へ

いつも にこにこやってくる

大和のくすりはよくくすり

四 神も仏も 薬も 大和

味も 大和の つるし柿

いつも にこにこやってくる

奈良のくすりはよくきくよ